

SRID 懇談会

マケドニアの紹介：マケドニアをご存知でない方のために

2013 年度 SRID 第 2 回懇談会

日 時： 2013 年 6 月 10 日(月) 18:30～20:00
場 所： JICA 地球ひろば 601/602 会議室
講 師： 香寿レシュニコフスカ、在マケドニア名誉総領事
参加者（順不同、敬称略）：湊、黒田、的場、福田、藤村、高橋、福永、不破、山岡、水上、辻岡、山下、竹田響（中央大学）、森博行（国際大学）…計 14 名

講師紹介（中沢会員 欧州復興開発銀行 前スコピエ事務所長）：

冷戦終了後の旧ソ連圏の激動は、旧ユーゴスラビアの構成国であったマケドニアを直撃した。そのマケドニア現代史の推移を実際に体験した、おそらく唯一の日本人である。この国に住んですでに 30 年を越えているが、その暖かな人柄で日本からマケドニアにやってくる人々をサポートし、日本とマケドニア両国の架け橋として活躍されている。難民問題に取り組んでいる日本救援行動センターの松元洋事務局長や、コソボで活躍中の指揮者、柳沢寿男ご夫妻などを紹介していただき、皆でワインとマケドニア料理を楽しんだ夕べを懐かしく思い出す。

アレキサンダー大王に由来するマケドニア共和国の名前を巡っては、旧ユーゴスラビアという補足付きで呼ぶべきだとする隣国ギリシャの主張に見られるように、長い歴史の変遷とその帰結としての多様な民族構成が、様々な形で現在にも影響している極めて興味深い国である。複数民族共存の成功例としてマケドニアを発展させたい、とする国際社会の願いを反映して、国際機関や EU 加盟国による様々な経済・技術支援が行われている。

私が赴任した 2004 年の末には EU 加盟候補国の地位を獲得している。インフラ整備、金融制度の改革、効率改善により、バルカン半島の市場に進出可能な企業の育成を図ることが経済改革の課題の一つである。気候に恵まれて、料理とワインが美味しいこの国の人々の表情は、ゆったりとしているように思われる。世界遺産として名高いオフリッド湖とそれを囲む森と溪谷の美しい国である。

開会挨拶（黒田幹事）：ロンドンの EBRD にいる中沢会員の紹介で、今回、香寿レシュニコフスカ名誉総領事を迎えて懇談会を催すこととなった。メールで案内した通り、総領事は、マケドニアにはユーゴ時代から 30 数年に亘り住んでおられ、民族紛争等大変な戦乱を経験された歴史の生き証人で、その実体験を日本語で語って頂けるのを、大変貴重な機会と楽しみにしていた。マケドニアといっても、我々は

アレキサンダー大王が紀元前3世紀頃に出てきた国であるとか、第一次大戦の頃にバルカン半島が世界の火薬庫と呼ばれたとか、近年はノーベル平和賞を受賞されたマザーテレサの出身地であることくらいしか知識が無い。ただ、サッカー好きの人は、近隣のクロアチア、ブルガリア等がサッカー大国で、日本代表監督を勤めたイビチャ・オシム氏もサラエヴォの出身であると知っている。旧ユーゴが崩壊しボスニア、コソボ、アルバニア、セルビア、モンテネグロと種々の紛争をプレスは報じているが、明確にそれぞれを理解している日本人はほとんどいないだろう。せいぜい大雑把に多民族国家でギリシャ正教に近いマケドニア正教とイスラム教が入り混じっていて、文化的にも一筋縄の理解では済まない程度のことしか、私を含めて日本人は解っていないと思う。本日は何卒よろしく！

講演要旨： マケドニアについてご紹介させていただくことを軽い気持ちで引き受けたが、専門家や実務者の方達に話す機会があまりないので不慣れな点をお許しいただきたい。

マケドニア共和国の概要

マケドニアに住んで30年になる。私は夫と知り合ってから初めてマケドニアという国があると知った。6共和国で構成されていた旧ユーゴスラビア連邦で、最も南に位置する貧しい地域であった。1991年9月8日に独立。1993年4月8日に国連に加盟し、日本と外交関係を樹立したのは1994年3月1日である。従って来年はその20周年を迎える。バルカン半島の中央に位置しており、東をブルガリア、南をギリシャ、西をアルバニア、北をセルビアとコソボに囲まれている。山岳国で2000メートル級の山も結構ある。小さいながらも景観に富んでいて、マケドニア人は愛情と誇りを持って「バルカンの真珠」と呼ぶ。世界遺産となっているマケドニアの観光地オフリッド湖はヨーロッパで最も大きく深い湖。そこで採れる真珠が有名である。標高700メートルの避暑地にあり、山並みも古い街並みも素晴らしい。ただし、湖の3分の1はアルバニア領である。

首都はスコピエ。山に囲まれた盆地で寒暖の差が激しい。冬はマイナス10度、夏は40度を超える日もある。日本のように湿気がないので日陰に入れば過ごしやすいが、肌が割れるほど空気が乾燥する時もある。スコピエを貫流するバルダル河は、ギリシャの国境を越えてエーゲ海に注いでいる。スコピエの人口は55万人。その他、人口10万人前後の都市がいくつかある。

南北に欧州自動車道路のコーリドー10が走っており、セルビアの国境を越えてテッサロニキの港まで繋がっている。全部が高速道路ではないので、今年はトンネルを掘り始めた。農産物は小麦、トウモロコシ、煙草、ブドウなど。特にワインが美味しいと喜ばれる。中東部のコチャニ地方には地下に温水湖があるため、コメもできる。日本と同じ短種米でコメ作りは400年の歴史がある。

カエルの多いこのコチャニ地方では、アフリカからやってくるコウノトリが風物詩となっている。コウノトリの巣はかなり大きなもので、何十年時には何世紀にもわたって使い続けられる。Local community house に架けられた3つの巣について面白い報告があった。真ん中の巣に住むコウノトリは、毎年自分の家族や隣の住人より1週間早く巣に到着する。そして隣の巣から枝を盗んでは自分の巣に運び込む。しかも、盗んだ痕を田畑から拾ってきた小枝や藁でカモフラージュするそうだ。

トルコや中国から大量に繊維製品が流入したため、以前は盛んであった繊維産業が落ち込んでいる。鉾山では銅や亜鉛が採れる。古い鉾山にレアメタルが埋蔵されており、政府が調査と発掘を委託する会社を選んでいる。アレキサンダー大王の軍隊が強かったのは、これらの金属で盾を作っていたためという伝説がある。

マケドニアは唯一、無血で独立を果たした共和国である。グリゴロフという政治家が我慢強く交渉した成果だが、後に初代の大統領となったグリゴロフはマケドニアでは十分評価されていない。国名を「旧ユーゴスラビアマケドニア共和国」として国連に加盟させたからである。その後、暗殺未遂事件が起きて片目を失い、額に深い傷が残った。その時公用車の運転手と通行人の2名が命を落とした。2代目の大統領も飛行機事故で死亡しており、彼の死に対する疑惑も晴れていない。

マケドニアは多民族、多宗教、多文化国家である。66パーセントがマケドニア人で、アルバニア人が22～23パーセントを占める。他少数民族としてトルコ人やロマン人（ジプシーのことだが、それは差別用語）やセルビア人等がいる。エジプト人と自称しているグループもある。プトレマイオス王朝はアレキサンダー大王のジェネラルが興したが、クレオパトラにはマケドニア人の血が流れていたといわれる。宗教は東方正教の1つであるマケドニア正教。ノーベル平和賞を受賞したマザーテレサはスコピエで生まれたカトリック教徒である。もう1人フェリッド・ムラットという科学者がノーベル賞を受賞した。200万人の人口で2名のノーベル賞受賞は悪くない。両者ともアルバニア系である。

住んでみたマケドニアの印象

一般住民の生活はどうかというと、民族が違い、宗教が違っていると、職場等を別にすれば交流が少ない。小学校からマケドニア語とアルバニア語の学校がある。混合学校でもクラスは別々。居住区もほぼ決まっている。ロマ人が最も差別を受けており、ゲッターのようなところに住んでいる。少数民族で最多数のアルバニア人との関係は特に微妙で難しい。異宗教間の結婚は少数派である。一般人は過激なことをするわけではないが、政治家が政権の座に就いたり居座るために民族的対立を煽っているところがある。政府にコントロールされやすいのは歴史的遺産か。

例えば1999年のコソボ危機の時、マケドニアのアルバニア人はコソボのアルバニア人を支持し、マケドニア人はNATO軍の空爆を受けたセルビア人にいたく同情をした。マケドニア人同士でさえ与党と野党に分かれて対立している。4歳の子供でも首相の名前がいえるような国である。一時は平和のオアシスとまでいわれたが、コソボのアルバニア系過激派とマケドニアの過激派アルバニア人がマケドニア警察を襲ったことが発端となり、2001年にスコピエから西へ40キロの地点で紛争が始まった。政府ですら予測できなかった事態に、対応が後手々に回った。スコピエ市内で交通整理をするお巡りさんの制服が迷彩服になった時には衝撃を受けた。

オイルショック時に日本ではトイレトペーパーが無くなったと聞いたが、この時はコーヒー、砂糖、食用油などが手薄になった。事務所でも自宅にいても遠くで戦闘の音が聞こえ、窓ガラスが震えた。にもかかわらず、気候の暖かくなったスコピエでは庭やバルコニーでコーヒーを飲んだり食事をする人達がいて、彼等は頑としてその習慣を変えようとしなかった。自分達の生活を乱されたくない、という抵抗の意思表示か。外で食事をしながら友達とだべるのが普通のことであった。

アメリカとEUが主導した「オフリッド枠組み合意」に沿って、与野党のマケドニア人側がアルバニア人の民族としての権利を最大限に拡大したため戦闘行為は終わったが、マケドニア人は負けたという気分を味わっている。民族に関係なく市民国家になることがまだまだ難しいのが現状である。今に至っても2001年の戦闘は真にアルバニア民族の権利を勝ち取るためだったのか議論されている。アルバニア民族解放軍が最初に出したコミュニケには、アルバニア、コソボ、マケドニアの一部を統合しアルバニア民族の国を作る、という文章があったからだ。

マケドニアは独立前から国名についてギリシャと論争を続けている。ギリシャの北部にマケドニアという地名もあり、古代マケドニアはギリシャの歴史として、マケドニアという名前を使うことにギリシャが反対しているからである。ギリシャから押しつけられた国名問題の為に、正式国名は「マケドニア共和国」であるが、国連を始めとして国際機関加盟は「旧ユーゴスラビアマケドニア共和国」である。ギリシャもおそらく政治家が煽っているのであろう。国名が問題になってから20年以上が経ち、マケドニア人はいまだに基本的なidentityの問題を解決できないでいるギリシャは「民主主義発祥の地」と言われるが、こういう頑固さを見ると全く民主主義に関係ないと思う。

現在のマケドニア人は6世紀にウラルから南下してきたスラブ系民族と言われている。民族問題、貧困問題、30%以上の高い失業率、肥大した公務員組織、医療問題、人口問題などが課題である。東京に来ると都市の大きさを実感する。マケドニアは小国だと思ってしまう。

マケドニアに初めて行った時は家族や近所の人達から大歓迎された。ホスピタリテ

ィを大切にする国柄で、男女を問わずスキンシップが大事にされる。大きな子供を膝の上に抱いたり、男同士が頬にキスをするなど、最初は抵抗感があったが、自分に孫ができてからはそれを楽しんでいる。

当時どこへ行っても耳にしたのは建築家丹下健三氏の名前だ。1963年のスコピエの大地震で1700人以上が亡くなった後、彼の都市計画案が採用され新駅や幾つかの大きなアパートが建設された。採用された都市計画の一部は実施されなかったが、スコピエ市のミュージアムに原案による模型が残っており、今でも有名である。昨年は彼の息子さんが来て講演し話題となった。人口比からみた建築家の数を比較すると、イタリア、マケドニア、日本の順に多いそうだ。今年は大地震から50周年にあたり、先週は日本から地震工学の専門家が10名学会に参加した。今でも専門家達の交流が続いている。

マケドニアに着いたばかりの時の思い出は、昼食がいつまで待っても出てこないこと。3時半になってようやくテーブルがセットされる。遅い時は4時か5時。マケドニアの勤務時間は午前7時半から8時ごろ始まり、午後2～3時に終わる。朝はコーヒー1杯で家を出て、勤務先で朝食をとる。夕食は9時以降というのが多い。マケドニアは地中海性気候と内陸性気候が入り混じっている。気質は陽気だが嫉妬深いところがある。近年EUの時間帯に合わせて終業時は4時になった所もあるが、ひたすら3時までには仕事を終わらせる傾向がまだ残っている。昼食がメインであるため、勤務を終えて自宅で昼食を食べる習慣は変わらない。学校は6月10日から8月31日まで長い夏休みがある。宿題は2、3の本を読んで感想文を書くだけ。登校日もなく夏休みは遊ぶもの、というのが主流の考え方である。

2001年の小規模内戦以降、マケドニア人とアルバニア人の若者達の間で一方が襲うと、他方が仕返しをするといった事が起きている。後ろで糸を引く人達がいる。これは政治的な問題であるのに、政府はそれを防止するために何もやっていない。現首相は民族主義的なマケドニア人で、アルバニア民族解放軍を母体とするアルバニア系政党と連立を組んでいる。政治家は自分のことしか考えてない。ボスニア戦争後は特にイスラム過激主義者が入り込んでもいる。貧しいマケドニアのイスラム教徒女性は頭にスカーフをつけると手当が出ると言われている。セルビアでも同じようだ。イスラム系女性のマントの丈が一部以前と比べ踝まで伸びている。

わたしの仕事

マケドニアは1994年に日本との外交関係を樹立した。2代目大統領が訪日している。まだ日本大使館はなく、在ウィーン大使館が兼轄しており連絡事務所が置かれている現在2名の現地スタッフが勤務している。必要に応じて在ウィーン大使館から大使を始め書記官達が訪れる。高村外相がコソボ危機時にマケドニアを訪問、又河野外相がコソボを訪問したときは、治安のよいマケドニアに泊まったりしている。当初、事務員は私1人だったので、JICA関係者のお世話をしたりもした。健康、教育、

農業、多目的ダム等への支援のために多くの JICA 専門家達等が訪れた。数は少ないが日本人旅行者も来た。最初長髪だった空気汚染の専門家は、マケドニアが安全な国であることが分かれると髪を切った。彼の長髪は空手か合気道の達人と思われ侮られない為であったそうだ。

犬にかまれた日本人の若い男性が来館した事もあった。医者が「死ぬ人の顔色には見えない」と言っただけだが、狂犬病ではないかと非常に心配していたので、もう一度別な医者を紹介した。鳥インフルエンザの流行時には、底冷えのする大学病院に日本人が収容された。交通事故や盗難にあった人、暴力を振るわれた人のケアなど、大使館に言われたわけではないが、とにかく 1 人しかいないので何でもやった。事務所には日本人ばかりでなく、日本人女性と結婚したいというようなマケドニア人も来た。全然素敵ではない変な感じの人で、説得しても容易に引き下がらない。そこでいくら貯金があるかを問いただし、その額で日本人女性と結婚するのは無理だと説得した。この事務所にはボランティア精神で約 15 年間勤務した。この間、私の支えとなったのは「香寿さんのおかげで不安がなかった」「ノイローゼにならなかった」「日本人のお助け寺」といった言葉で、私にとっての勲章だと思っている。

1999 年には 33 万人のコソボ難民がやって来た。主にアルバニア人であった。UNHCR が大きなテント村をいくつも作った。キャンプを訪れると、広々としたところに何百ものテントが張り巡らされ、悪臭がこもる最低の衛生状態で生活していた。2001 年の内戦時には国内避難民が発生した。どうしても民族混在の故郷へ帰れないという人達である。実際こうした内戦が 2 度と起きないという保証はなかった。国や国際社会から見捨てられ、希望もなく、最低限の条件で暮らしている紛争の犠牲者達だ。

こんな中で、私が家族や親戚以外のマケドニア人に本当に受け入れられていると感じた時がある。2001 年にスコピエから西へ約 40 キロのところにあるテトヴォでの闘いが、政府が戦車を投入した事によって一段落したかに見えた時であった。当時既に警官や兵隊が 20 名以上殺されており、巻き添えで殺された一般人もいた。日本の駐在武官と一緒に、とにかく行けるところまで行こうとアルバニア民族解放軍の籠っていた丘の下まで行った。そこからは通行禁止で、途中 3 つの検問所があった。日本はドナー国なので、日本人を悪く思っていないだろうと、警察が発行した ID カードを見せると、マケドニア姓なのですぐに通してくれた。それから不発弾がある所を歩いて、第 1 線での戦いを志願した兵隊さんの案内で民族解放軍が立て籠もっていたところを見て回った。その日は 4 月か 5 月で綺麗な花がたくさん咲いていた。こんなに美しい所で人間は何てバカなことをしているのだろう、と強く思った。

最後にマケドニア人の国民性がよくわかる話をしたい。連絡事務所の前身であった日本情報センターに勤めていたころ、ウィーンの大使館から三味線コンサートをやりたい、という話があった。どのようにして観客を集めるかが問題だった。現地の

ミュージシャンと共演してもよいというので、ステファノフスキーという旧ユーゴでも人気のあるヨーロッパで 5 指に入る最高のギタリストに白羽の矢を立てた。当地はコネ社会なので知人のつてを使い、本人に会って話をする事ができた。彼自身が色々な文化に触れたいと積極的だったので、観客集めの心配はなくなった。その後、ウィーンの文化担当書記官と相談して準備を進めた。

いよいよ三味線奏者が到着する朝、ギタリストから「今リュビアナ（スロベニア）にるのでリハーサルの会場に行けない」という電話が入った。午後に顔合わせ、音合わせの約束をしていたので動転したが、とにかく明日着いたらすぐ会場に来てくれと頼んだ。担当書記官もショックを受けていた。しかし奏者に不安を与えるわけにはいかないので、「よくあること」という顔で会場を案内した。翌日午後、リハーサルをしているとギタリストが会場に姿を見せほっとした。音合わせはほんの 10 分で終了。さすがにプロである。当日、会場は大入り満員で、通路にまで人が入った。最後の共演で会場は沸きに沸いた。不安要素を抱えながらも、大概最後はうまくゆくのがマケドニアである。

多少古いが日本人が登場するジョークを一つ紹介する。「なぜマケドニアと日本にはエイズがないのか。」答は、「エイズは 20 世紀の病気である。日本は 21 世紀、マケドニアはまだ 19 世紀だから。」拙い話を最後まで聴いていただき、皆様に感謝したい。

質疑応答：

高橋 旧ユーゴ時代と今とは何が違うか。

講師（以下敬称略で“香寿”と表記させていただきます）中間層がいなくなって所得格差が拡大した。旧ユーゴ時代は医療費教育費が無料であった。

不破 日常では何語を使うのか。

香寿 共通語はマケドニア語で南スラブ語系の言葉である。各少数民族がそれぞれの言葉を併用している。例えばブラフという民族は 3 グループいるが、マケドニア語と共にブラフ語をも併用しているという風だ。マケドニアにとって最重要課題の一つは国防であるが、現在国防大臣はアルバニア系であり、彼が一部の行事で共通語であるマケドニア語でなくアルバニア語を使用し論議を醸したりもしている。子供が結婚すると両親同士が実のある付き合いをする。社会生活が豊かで家族の絆が強いのはアルバニア人も同じである。

高橋 今頃の季節にマケドニアに行ったことがあるが、老人や子供を含めて住人が夜遅くまでうろうろ歩いていた。

香寿 夏になると幼児ですら夜の 1 2 時まで騒いでいる。これは日中暑いからであるが、他人に迷惑をかけるのは平気。かけられても気にしない。ドアをバタンと閉めても、音楽をジャンジャンかけても、誰も文句を言わない。息子の結婚披露宴では両家から 50 名ほど参加したが、呼ばれなかった多くの友人達が新

居に集まって DJ をかけて一晩中騒いでいた。誰か文句を言ってくるのではないかと戦々恐々としていたが、文句を言ってくる人は誰もいなかった。

黒田 生活の中で最も気にかけていることは何か。

香寿 人との付き合い。特に日本人（冗談です）

福永 40 年前の地図にはマケドニアの地名がない。

香寿 旧ユーゴ時代にも 6 共和国間の境界線はあった。ただ言葉が変わるだけで通行は自由。共通語はセルビア・クロアチア語。両者にはキリル文字とローマ字の表記の違いがある。クロアチアは独立以来（憎い）セルビアとの違いを際立たせるために色々と新語を作っているらしい。藤村 セルビアの宗教はモスリム化しているときくが、地域全体としてモスリムが多いのか。

香寿 セルビア人はセルビア正教であるが、南西部に多いアルバニア人はほぼモスリムである。

高橋 マケドニアはロシアに親近感を持っているか。

香寿 全然持っていないといえるだろう。マケドニアに政治力、外交力はないが、交通路にあったために多くの国と関わってきた。ロシアが特にマケドニアを支持したことはない。但しロシアは、アメリカ、中国、トルコのようにマケドニア共和国という正式国名を認めている。正式国名を認めている北朝鮮とも国交がある。

水上 古代マケドニアと今のマケドニアの地理的な位置と民族は全く違うのか。

香寿 現在のマケドニア人は 6 世紀頃ウラルから下ってきたスラブ系民族といわれる。マケドニアはキリル文字発祥の地でもある。ヨーロッパで最初に洗礼を受けてキリスト教徒になったのはマケドニア人女性であった。第 2 次世界大戦では最新の兵器が使われたため、国民の 10% が犠牲となったと言われている。古代マケドニアも戦争をしていたが、一般住民は戦争が終わると戻ってきてスラブ系と混じりあったと考えるのが最も自然である。地理的には一部北部を除き古代マケドニアの版図内にあった。スコピエで行き交う人を見ると、金髪碧眼もいれば、黒目黒髪、褐色の髪にオリーブ色の肌の人がいる。昔から交通要所にあったので民族的に入り混じっている。

湊 海外に出ようという傾向が強いのか。

香寿 若い人は仕事が見つからないので海外を目ざす。マケドニア人のコミュニティが最も多いのはカナダのトロント。2 番目はオーストラリアのメルボルン。次いでスイス、北欧、ドイツ、ベルギーなどに多い。彼らの仕送りが生活の基盤になっている。

福永 よりよい良い生活を求めてイスラム化したといえるのか。

香寿 500 年間オスマントルコの勢力下にあった。平野部の川沿いや、山間の農地にはトルベシと呼ばれる人達が住んでいる。より良い生活の為に自主的にイスラム化した人達だが、彼らのマケドニア語は純粹で綺麗な言葉である。忠誠心は強いがイスラム教徒というだけで差別されている。

高橋 鉱産物資源と農業分野に中国が進出しているか。

香寿 中国は早くから大使館をおいている。しかも大使館員は英語ではなくマケド

ニア語を話す。援助では日本人の誠実さが表れるというが、今は中国も色々やっている。中国製品は爪楊枝から家具まで全部そろっている。

水上 日本食のレストランはあるか。

香寿 マケドニア人が経営し、日本人女性とタイ人が料理を担当しているレストランがある。値段の割には量が少ないので、大食漢のマケドニア人には物足りないかもしれない。値段的にも一般の人には高額である。去年の暮れに行ったときは、店はガラガラだった。

水上 バルカン半島の第3の人気観光地として「地球の歩き方」に紹介されているが実態はどうか。

香寿 定期的に日本人観光客も訪れている。しかし、クロアチアとスロベニアには日本人専門の旅行社があり、マケドニアはまだまだこれからである

山岡 在留邦人が18名といわれているが。

不破 マケドニア語を話さないと不便か。英語を話すのか。

香寿 日本人は少ない。小学校3、4年から英語教育をしている。若い人の英語力は日本人よりはるかに高い。

黒田 ギリシャ語を話す人もいるのか。

香寿 習っている人達がいる。

高橋 学区制はどうか。大学はいくつあるのか。

香寿 小学校は8年制。その前に1年間のプレスクールがある。高校、大学が4年制。医学部は6年制である。大学も増えてきた。アルバニア人の不満を抑える為EUが肩入れをして私立大学を作った。政府の方針は教育の地方化。就職状況が悪い事も手伝い進学率は高い。しかし成績が悪いと卒業できない。スコピエ大学以外は規模が小さい。

の場 パスポートにはどのような国名が記載されているのか。空港は整備されているか。

香寿 「マケドニア共和国」の後にカッコで旧ユーゴの頭文字が書かれている。スコピエにも空港があり、ベルリン、ウィーン、ロンドン、イスタンブール、ドバイ、デュッセルドルフなどへ飛んでいる。マケドニア人がギリシャに行く時には別の紙1枚が必要で、マケドニアのパスポートは使えない。私もギリシャに行った時にペンでパスポートに押されたマケドニア国名を消されたことがある。対応の良し悪しは担当者による。民族主義的で意地悪な人もいる。昔は日本の担当者も無愛想だった。今回は愛想がよかった。

藤村 スキンシップが生活の基本というのはモスリムの習慣ではないか。

香寿 抱き合っても頬は触れていないで離れている。ヨーロッパでは触れていることが多い。

辻岡 どちらともいえない。相手によるのでは。

高橋 ハグをするけど確かに触れていない。体温を感じる程度。

不破 エジプトでは触れていた。

藤村 スキンシップは男同士、女同士か。民族が違ってもハグするか。

香寿 男女間で軽くハグするのは普通である。民族が違っても友達ならハグする。

黒田 マケドニアのロマ人とヨーロッパのジプシーは同じか。東西の大政治勢力の狭間で難民問題が出てきても不思議ではない。

香寿 ロマ人はインド系の流民でバルカン、東欧、南欧の各地に存在している。ジプシーはその差別的な呼び名である。子供が誘拐されてきたケースもあるといわれる。

黒田 オシム氏は日本代表の監督だったので印象が深い。日本は、政治や経済では協調性を発揮し、上手く結果を出している。この協調性をサッカーで出せれば、サッカーも強くなれると言っていたが、どう思われるか。

香寿 最も人気のあるスポーツはサッカー、バスケットボール、ハンドボールなどの球技。確かに民族間の対立がスポーツに及んでいる。旧ユーゴのバスケットチームが崩壊すると、ナショナルチームで共に戦った選手達が疎遠になったりした。分かれて試合をするときには意地でも勝とうとする。悪い意味で意地にこだわる。自分が損をしても意地を通すことがなきにしもあらずで、強い個性がベースにあると思う。

高橋 サッカーチームには少数民族も入っているのか。

香寿 マケドニアのナショナル・チームではアルバニア人がキャプテンであったこともある。応援団が旗を燃やしたり、軽蔑的な言葉を叫んだりする事もある。カラオケはいまでも盛んである。空手、合気道、柔術クラブ、忍者クラブもある。あるイベントに参加したら、忍者の格好をした若者達が警備員のごとく要所々にじっと立っていた。

水上 民族融和主義を主張する政党が浮かび上がる可能性はあるか。

香寿 主流ではないがそれを主張する政党はある。

不破 各国のキリスト教正教間の対立はあるか。

香寿 セルビア正教はマケドニア正教を認めていない。政治が絡んでおり、兄貴気分が聖職者にまで及んでいる。セルビアとモンテネグロは一時期同じ宗派であったのでは？ロシア正教もマケドニア正教を認めていない。マケドニアはカトリック総本山のヴァチカンとの繋がりが強く、マケドニアから出たカトリックの聖人もいる。

高橋 旧ユーゴ時代に比べると豊かになった反面、貧富格差が拡大した。民族対立と貧困問題が結びつくと危険ではないか。

香寿 最も貧しいのがロマ人。他の民族と同じ割合でマケドニア人も貧しくなっている。

藤村 異民族間の結婚はあるか。

香寿 マケドニア人とセルビア人の結婚が多い。一説にはマザーテレサの父親がブラフ系といわれている。今でもマザーテレサの親戚がスコピエに残っていて貴金属店をやっている。彼らはカトリック教徒である。

藤村 1970年ごろ、イギリス人の友人が夏休みにユーゴスラビアのクロアチア海岸に行ったと言っていた。リゾート地として今日最も発展している国はどこか。

香寿 スロベニアは以前から生活水準が高い。次はクロアチアとセルビア。マケドニアはモンテネグロと同水準である。アドリア海の海岸は下が小石で澄んでい

る。本当に素晴らしい。

藤村 クロアチアにはドイツ人がいたのか。

香寿 一時期、クロアチアはオーストリア・ハンガリー帝国下にあった。

黒田 民族対立が原因での日常生活上のセキュリティの問題はあるか。

香寿 特にない。カラシニコフや手榴弾などの武器が今でも市場で売られている。

大っぴらに売っているわけではない。2001年の内戦後、国連（NATOだったかもしれない）の肝いりで武器を収集したが、殆ど古いものばかりで、新しい武器は手元に残された。日本は本当によくコントロールされていると感じる。昔は食料を市場で買っていたが、今はショッピングセンターができて買い物に不便はない。日本情報センター時代から仕事を始めて15年近くになる。4年前に名誉総領事になったら急にお呼ばれが多くなった。仕事はこれまでと変わらない。特に精神的にはそうだ。日本人が事務所に来て、カネを預かって欲しいと言われて困ったことがある。

山下 ボランティアで働いているという話であったが、給与は支払われていないのか。

香寿 日本情報センターでもらっていた給与はマケドニアの水準のもので小額であった。ボランティア精神でやっていた。名誉総領事になると給与は出ない。そのかわりマケドニア外務省からIDカードをもらい、意見を聴く場に招かれたり、新年のレセプションに招かれたりする。現地にいないと把握できない情報についてコメントを求められる事もある。日本人業者が納入した機材の支払いを督促する場合などに名誉総領事の名前を利用した事がある。単なる現地職員から名誉総領事になった日本人は私1人だけかもしれない。早く日本大使館をつくってほしい、というのが私の願いである。マケドニアでは生活が苦しいので、若い人は結婚しないし子供をつくらない。チャンスを見つけては海外に出ようとする。アルバニア系との対立があり、同民族間でも与野党の対立がある。それを克服すればマケドニアはもっと発展できるはずである。

黒田 長時間にわたり大変貴重な話を、しかも臨場感あふれる語り口で有難うございます。歴史の荒波の中でも、常に背筋を伸ばして着実に前進される総領事の姿勢には、感銘を受けました。どうか今後もくれぐれもご自愛頂き、お元気で御活躍下さい。

香寿 ご静聴ありがとうございました。少しでもマケドニアを理解していただければ幸せです。(了)